

第 20 回かんもん景気ウォッチャー調査

平成 21 年 8 月調査結果

最終消費を中心とした関門地域の景気動向を、「第 20 回かんもん景気ウォッチャー調査」結果からみると、3 か月前と比べた景気の現状判断 D I は、前回調査（平成 21 年 5 月）とほぼ同じ水準の 38.4 となり、現在の景気水準自体の判断 D I は前回は 5.3 ポイント下回る 21.4 となった。なお、先行き判断 D I は、47.3 の見通しにある。

景気ウォッチャーによる判断を総合すると、関門地域の景気の現状は引き続き厳しいことを示すものになっている。

（この調査の対象先）

・ 大型小売店・専門店等	6 人
・ 飲食店関係（含むスナック）	5 人
・ 観光関連（ホテル・旅行業者）	7 人
・ タクシー業界	4 人
・ 商工業団体等	8 人

計 30 人

〔 照会窓口：調査室 〕
TEL：083-223-3632

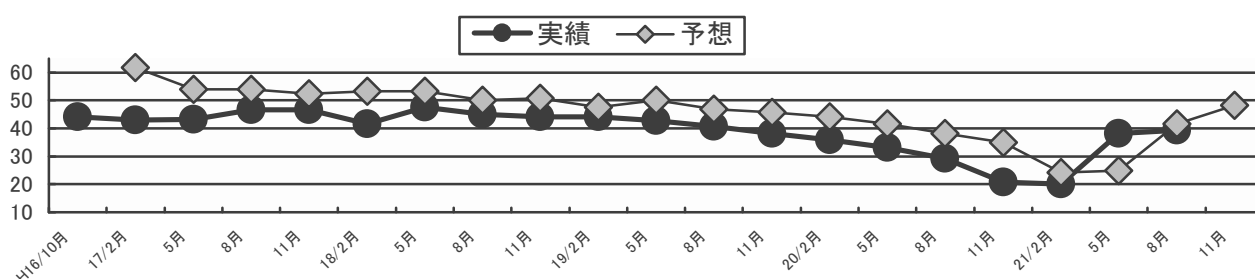
調査結果の概要

1. 景気の方角性に関する判断DI

3か月前と比べた景気の方角性に関する判断DIは、38.4と前回調査と同水準となった。なお、平成21年11月頃を見通した先行き判断DIは、47.3となることが見込まれている。

平成20年 11月実績	平成21年 2月実績	平成21年 5月実績	平成21年 8月実績	平成21年 11月予想
20.8	20.0	38.3	38.4	47.3
〔前回調査時点 予想35.0〕	〔前回調査時点 予想24.2〕	〔前回調査時点 予想25.0〕	〔前回調査時点 予想41.7〕	

▽「景気の方角性に関する判断DI」（調査開始時点からの推移）



(注)DIの見方

判断DIは「50」を基準点として、上回れば「景気が良い」との見方が多く、下回れば「景気が悪い」との見方が多いことを示す。

(1) 3か月前と比べた景気の現状判断DI

3か月前と比べた関門地域の景気の現状判断DIは、38.4と前期とほとんど変わらず、「景気は横ばい」であることを示す50.0を割り込んだままとなっている（内閣府による全国の調査結果は41.7）。

景気ウォッチャーからは、「高速道路料金割引や門司港のレトロ観光列車“潮風号”の効果などもあって集客状況は良いが、なかなか購買までは結びついておらず、商業関係施設はどこもよくない」（商工業団体）、「ここ2~3ヶ月宿泊者数が大幅に減少している」（観光関連）、「天候要因から夏物商品が不振」、「節約志向が消耗品、家庭用品への購入まで及ぶなど消費者の財布のヒモは固い」、（大型小売店）などの意見があり、関門地域の景気は引き続き厳しいものとなっている。

(2) 景気の先行きに対する判断D I (3か月先までの見通し)

3か月先までの景気の判断D Iは47.3となった(全国の先行き判断D Iは44.0となっている)。

景気ウォッチャーからは、「個人収入の減少や雇用情勢など市場の環境の変化が見受けられない」、「主力の衣料品の動きが悪く、ファッション関係の需要が戻ってこない」と急激な回復は望めない(大型小売店)、「新型コロナウイルスを理由にしたキャンセルも出てきており、当業界に限らず少なからずマイナス材料である」、「雇用や所得環境が悪く、宿泊が回復してくるにはまだ時間がかかる(観光関連)」といった意見が聞かれる。

一方、「このところ客数が戻りつつあり、売上げも順次上がっている。9月の大型連休に期待している(飲食)」、「高速道路料金割引による遠来客の増加が見込める」、「団体客の予約状況は前年を上回っている(観光関連)」といった声とともに、「11月以降関門両地区における海峡マラソンなど市、業界を挙げてイベント等の企画を打ち出しており、底上げにつなげて行く(観光関連、商工業団体)」としており、その効果が期待される場所である。

2. 現在の景気の水準に対する判断D I

関門地域の判断					(参考) 全国の判断				
20年 8月	20年 11月	21年 2月	21年 5月	21年 8月	20年 8月	20年 11月	21年 2月	21年 5月	21年 8月
28.3	21.7	18.3	26.7	21.4	25.5	18.9	14.7	23.1	28.7

現在の景気の水準自体が「良いのか」、あるいは「悪いのか」に関する判断D Iは、前回調査から5.3ポイント悪化して21.4となった。

以上

(参 考)

かんもん景気ウォッチャー調査について

1. 調査の目的

関門地域において、景気に関連深い動きを直接観察できる立場にある方々のご協力を仰ぎ、この地域の動向を的確かつ迅速に把握するとともに、景気動向判断の基礎資料の1つとすることが目的。

2. 調査の範囲

(1) 対象地域

下関市周辺地域および北九州市門司港周辺地域。

(2) 調査客体

個人消費の動向を中心に景気動向を敏感に反映する現象を観察できる方々の中から、30人の方にご協力いただいている。

(注) 今回の調査にあたって、従前の調査先を一部変更している。

3. 調査事項

(1) 景気の状態に対する判断 (方向性)

(2) (1) の理由

(3) 景気の先行きに対する判断 (方向性)

(4) (3) の理由

(参考) 景気の状態に対する判断 (水準)

4. 調査・発表時期

調査は、毎年4回(2月、5月、8月、11月の月中)実施し、その翌月発表する。

5. DIの算出方法

景気の状態、又は先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、DI値を算出している。

評価	良い (良くなっている)	やや良い (やや良くなっている)	どちらとも言えない(変わらない)	やや悪い (やや悪くなっている)	悪い (悪くなっている)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0